

レポート名

未来もつないでいこう くじら船

名前

藤井まほ

きっかけ

富田では、くじら船が有名です。でも、どんなことがすごいのか、なんでそんなに大事なのか最初は知りませんでした。4年生になると、くじら船をやるので、どんなものか気になって、調べたくなりました。それがきっかけです。

祭りの名前

くじら船祭り

開催日

9月27、28日

開催地

鳥出神社を中心に富田地区(東富田町、古川町)

どんな祭りか

捕まえようとしてくる船にくじらが逆襲する祭り

## 調べたこと

くじら船祭りとは、ユネスコ無形文化遺産に登録されたすごい行事です。そんなくじら船のおもな見どころとすごいところを紹介します。

まず、おもな見どころを紹介します。1つ目はくじらに注目してほしいです。船は豪華な飾りつけでできています。それは金色でとてもかっこいいです。他にも竜がいたり屋根をつけてちょうちんもついているところも見所です。2つ目は、上に立つ人の演技に注目してほしいです。声に合わせて踊る姿はまるで本物の漁師が

「くじらを捕まえるぞ！」

と言っているように見えます。すごい迫力なので皆さんも見に行ってみてください！

次はすごいところを紹介します。1つ目は船を持っている人やくじらを持っている人です。船を持つ人は、横に倒れたりするのを何回も行います。聞いてみると船に飾りをつけると2トンもあるそうです。それを十何人ほどで持つのはすごいと思いました。くじらを持つ人も、くじらは重いのに2人で持てるところがすごいです。なぜそれがすごいのかというと、くじらを持つのは私も体験させてもらったことがありましたが、6人で持ったので軽いかと思ったら、予想より重かったのでびっくりしました。私はこれを2人で何時間も持つのは大変なんだなと知りました。2つ目は240年も続いていることです。江戸時代から続いていたくじら船がわたしは大好きです。

だから、こんなに長い歴史があるくじら船をつなげていきたいです。

## 名前

藤井まほ



## 参考

見に行ったこと

## 校内発表会での取り組み

私はアートグループに入りました。

アートグループでは約1万個のペットボトルキャップの真ん中を開けて間違えないで正確にひもを通して、ペットボトルキャップアートを完成させる仕事でした。最初「1万個！？でもみんなもいるし大丈夫か」と思っていました、それは簡単ではありませんでした。

ペットボトルキャップはきりという道具で開けました。きりはさきがとがっていたので、手を刺さないようにするのも大変でした。通すのは、順番通りにやるだけだし簡単かと思いましたが、それもとても大変でした。集中力があるし、何より針に通せないキャップがあったので、それは開けに行かないといけません。両方の仕事をするのは大変だったので、同じ仕事の人に手伝ってもらい、何とか1時間で2つ作れていた、「大丈夫か」と思っていたけれど、あと三日で本番が始まるという日がせまってきました。あせっていて不安な気持ちでした。

でも、「くじら船はすごい行事だからつないでいかないと」という心がありました。その心にささえられて、残り一日というところで完成したという声が入ってきて急いで見に行きました。見たとたん、びっくりした気持ちとうれしい気持ちがありました。それはすごく上手にできていたのです。自分がほこらしくなって頑張ったかいがあったと思いました。だからくじら船はみんなにつないでほしいと思いました。

名前

藤井まほ



写真の説明

上の絵がペットボトルアートです。

## くじら船祭りの課題とこれからについて

名前

藤井まほ

このようにくじら船祭りはすごい行事です。しかし、最近はやる人が減ってしまい、くじら船祭りがこのままだとなくなってしまう可能性があります。240年もくじら船祭りが続いているので、私はつなげていきたいと思っています。だから、皆さんに協力してほしいのです。

くじら船祭りには、次のような由来があります。昔、江戸時代のころ、くじらの親子が伊勢参りに行こうとしたら漁師に見つかってしまいました。くじらの親子は見逃すよう必死にお願いしたけれど、漁師は無視して捕まえてしまい、そこから魚がとれなくなってしまいました。もうくじらを取らないとちかかってからとれるようになったのですが、漁師は鯨を捕まえたことが忘れられず、かわりに「くじら船祭り」という祭りを始めました。それがくじら船祭りの始まりとされています。

その伝統を守ろうと、保存会の人や私たちががんばっています。くじら船祭りは、やっている人がとても大切に思う、つないでいきたいと思うほどすばらしい行事です。どうか、くじら船祭りのことを知ってください。手伝えることがあったら手伝ってください。お願いします！

